

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401755		
法人名	株式会社 サポートライフ		
事業所名	グループホーム 泰安の郷 海願 (1F)		
所在地	北海道函館市海岸町9番30号 (電話)0138-62-5577		
自己評価作成日	平成23年1月17日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401755&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401755&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人ひとりが誇りを持ち、地域の一員として生活することを支えるべく、地域の小学校の運動会や学習発表会等にも招待して頂き、交流を深めている。      皆が笑顔こぼれる日々を過ごせるよう心がけている。月に1度 行事を設け、さらにクリスマス会などの合同行事の際は 外部ボランティアにお願いし、入居者様に唄や踊り、手品等を楽しんで頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p><b>&lt;認知症の理解への取り組み&gt;</b>          毎月発行する便り「海願からの潮騒」で(認知症豆知識)を継続的に連載し、介護保険法のサービス種別やピック病等家族や来訪する地域の人々などに配布し、認知症への理解を広く伝える取り組みをしている。また、事業所主催のイベント(夏祭り、七夕等)や清掃などの町内会行事参加、地域ボランティア(ハーモニカ演奏、マジックショー、フラダンス等)の受け入れで地域との連携に努めている。</p> <p><b>&lt;入浴への支援&gt;</b>          グループホームでは、導入が珍しいストレッチャー・昇降機付きの特殊浴槽を設備し、利用者が安心・安全に入浴できるように支援していると共に職員の身体負担を軽減している。また、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。</p>
---

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社の介護理念を掲げ、毎朝の朝礼で読み上げることで、常に念頭に置き、入居者様に携わるよう心がけている。	事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時に読上げたり、ミーティング等で話し合い共有し、その実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃や夏祭りへの参加、海願で行う夏祭りや七夕の呼びかけを行い、ふれあいの場を設けている。	清掃活動や資源回収等の町内会行事参加や事業所主催の夏祭り、七夕を実施し、地域の人々に参加を呼びかけるなど日常的な交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の研修会に参加し、意見交換の場として活用している。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し多くのご家族に参加して頂き、日々の様子を報告している。苦情や要望があれば速やかに対応させて頂いている。	2ヶ月毎に定期的に運営推進会議を開催し、地域との協力体制や行事参加、インフルエンザ予防対策等について具体的に話し合っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や介護支援専門員が中心となり、交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市や包括支援センター主催のターミナルケア、精神科医の講演会等の研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、教育委員と連携を取り、勉強会を行い、身体拘束を行わないケアを実践している。	身体拘束廃止委員会や教育委員との連携で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の朝礼で「高齢者虐待を考える」の冊子の一文を読み、意識の向上に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加し、勉強会の場を設け個々のスキルアップに繋げている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を一緒に見ながら説明し、疑問や不安を解決した上で捺印頂いている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1度行い、ご家族が要望を言える場を設けている。又、包括支援センターや保健所の方にも参加いただいている。玄関には意見箱を設置している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置している。また、健康状態や日常生活の様子等詳細に情報提供している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は随時聞くようにしており、管理者から運営者へ伝え反映されるよう努力している。	毎月の会議や日常業務を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設け、運営に反映するよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を管理者から代表者へ報告している。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われている研修会へ積極的に参加している。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や親睦会に参加し情報交換が行えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴からその人との関わり方を探り、より安心して生活して頂けるよう、気軽に話せる関係を築けるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供にあたり懇切丁寧を旨とし、ご家族の不安や要望には理解しやすいよう説明をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際、十分な聞き取りを行ない、介護支援専門員が経験や知恵を活かした的確なアドバイスを行えている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お料理や洗濯や縫い物等、個々の出来るところは活かし、お手伝いして頂いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り等の大きな行事や紅葉狩り等の外出行事では、ご家族にも協力、参加を呼びかける。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧友からの葉書の代読や返信の援助をし、関係が断たれてしまわないよう支援している。	ホーム主催の夏祭りや七夕、ドライブや紅葉狩り、家族の訪問の支援等で馴染みの人との交流や場所との関係が途切れないように、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方に同席して頂き、意思疎通の難しい方は介護員が間に入る事で係わり合いを持てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院先のスタッフと連携が取れており、必要があれば支援することが出来る。			
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望・意向の把握は出来ているが、状況により安全性を優先するよう検討している。	喫茶店訪問や買い物等一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め支援している。また、職員間で情報の共有が行われている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時の情報をスタッフ全員が共有出来ている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の出来事や認知症状について記録し把握している。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンスを行い、日々関わっているスタッフ間での情報交換を行っており、必要に応じてプランの追加変更を行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の希望や意見を反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成担当者が日々記録の確認を行っており、認知症状等の進行等が見られる場合は、プランの見直しを行っている			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その入居者様にとっての一番を考え、常に状況に適した提案が出来るよう随時カンファを行っている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームが孤立する事なく地域と関わりがもてるような関係作りを行っている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の希望を伺っており、情報提供等の連携が取れている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、訪問看護の利用や医師の往診で適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週同じ訪問看護師が来ており、入居者様の状態を把握している。訪問看護師とは24時間連絡がとれるようになっており、いつでもアドバイスを受けられる。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を渡している他、入院の際は普段の様子等も付け加え説明している。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変に備え早い段階からご家族の意向を伺っている。また、看護職が在籍していないので、介護職で出来る事、出来ない事の説明を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、医師、職員が連携をとり事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	糖尿の方がいるので、低血糖症状について勉強をしたり、起こりうる急変等を予測し対応出来るように学んでいる。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署員や地域の方が立ち会いのもと避難訓練を実施しており、毎回想定を変えて色々としミュレーションしている。	スプリンクラーの設置は、来年度予定している。また、年2回火災避難訓練を消防署の協力のもと実施していると共に毎月防災デーで防火管理チェックを行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の声掛けや記録等は個人の尊厳に配慮し対応するよう心掛けている。	身体拘束廃止委員会や教育委員会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の分かりやすい言葉での声掛けや小さな表情の変化を見逃さずに察し、希望に添った支援を目指している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした気持ちで援助を行う事を介護目標に置き、型にはまった1日にならないよう配慮している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容のオーダーを本人に伺ったり、ご家族の要望も取り入れている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びや調理、味見、茶碗拭き等は日課にしており、楽しみにされている方もいる。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握や水分量の不足している方への声掛け等、全職員が注意をはらっている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は居室で、見守りが必要な方はフロアで、とそれぞれのお力に合わせたケアを行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ティッシュを準備する、ズボンをつかむ等、排泄前のシグナルを発見し、サインを見逃さないようにしている。	排泄チェックで排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合った排泄コントロールを医療連携看護師のアドバイスのもと行っている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けをし、希望に添った入浴を行っている。	グループホームでは、導入が珍しいストレッチャー・昇降機付きの特殊浴槽を設備し、利用者が安心・安全に入浴できるように支援していると共に職員の身体負担を軽減している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力を考慮し午前や午後夜の睡眠に影響のない程度に休息を促している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの持病や処方されている薬について全スタッフが把握しており、主治医の指示のもと、服薬の支援を行っている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽や踊りが好きな方、お手伝いを日課とされている方等、個々に合わせた生活を支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>職員は外での刺激(風、光、音、におい)を大切に、天気や体調を考慮し外出の機会を持っている。</p>	<p>紅葉狩りやドライブ、函館牛乳の見学やレストランでの外食等普段は行けないような場所や本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人のお金を使用する機会は少ないがお金を持っていることの安心感を大切に、誰がどこにどれくらい所持しているかを把握している。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公衆電話を設置し使用の援助を行っている。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下や居間兼食堂は季節に合った飾りをし、四季の移り変わりを感じて頂いている。又、トイレは分かりやすく札を下げている。</p>	<p>施設内は、全体的に広くゆったりしていて、ベランダやリビングには椅子やソファが置かれ、利用者が集って談笑したり、一人になったりでき、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事席は気の合う仲間と座って頂けるよう配置を工夫している他、ソファ等、独りでゆったりと過ごせる場に提供している。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇や家具等、使い慣れたものを持ち込んで頂き、環境の変化による認知症の進行を緩和している。</p>	<p>居室は、本人や家族と相談しながら、仏壇や使い慣れた家具、寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々のADLに合わせ協力を依頼し自立支援している。</p>			

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401755		
法人名	株式会社 サポートライフ		
事業所名	グループホーム 泰安の郷 海願 (2F)		
所在地	北海道函館市海岸町9番30号 (電話)0138-62-5577		
自己評価作成日	平成23年1月17日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小学校と交流があり、運動会や学習発表会等に招待して頂いている。</li> <li>・月1回、各階で行事を設け、クリスマス会等の合同行事の際は、外部ボランティアの方々に、歌、踊り、手品等を披露して頂き、入居様が楽しめる様 心がけている。</li> <li>・尊厳やプライバシーを重視し、利用者一人ひとりが誇りを持ち、できるだけ自分のペースで心安らかな毎日を過ごせるよう配慮している。</li> </ul>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401755&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401755&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の介護理念や入居者に接する15ヶ条を作り、サービスの充実・提供に努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の花屋さんへ買い物に行き、顔なじみになり挨拶をするようになったり、散歩を通じて地域の一員である意識を持っていただいている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での懇談会・研修会などに積極的に参加し、地域住民の声を聞く機会を持つよう取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の日程は実際の行事に合わせる事もあり、参加して頂いた感想や意見を次回に活かせるようにしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密に連絡を取り合い、協力関係を築く努力をしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵においても使用しなくても良い状態を保てるように日々のケアを工夫している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、講演会等に参加し、発表の場を設け、個々それぞれが意識してケアにあたるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての講習会等に参加し、必要性のある方や活用されたい方には担当者への橋渡し等の支援を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い家族等が理解、納得していただけるようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に相談窓口の掲示をしたり、ご意見箱を設置している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に管理者と職員が話し合える機会があり、都度、意見・報告を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な情報は提出書類にも記載されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、内部勉強会を実施している。外部研修にも職員が積極的に参加するよう働きかけ、報告会を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム連絡協議会に加盟している同業者との定期的な研修会等に参加し、交流を深め、情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい環境作りに心掛け、面談時には傾聴し安心していただけるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームを理解していただけるように説明し、安心してご家族が話ができる関係を築くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族とよく話し合い、状況に応じ、よりよい方法を一緒に考え、必要な提示出来るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として接し、共に協力し合いながら生活を楽しんでいただける関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有し、それぞれの立場でご本人にとって必要な事を支援していけるような関係を築く努力をしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の想い、不安等の情報をご家族へお伝えし、ご本人が望む状況に近づく支援をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や利用者同士の関係を理解した上で、さりげなく働きかけ、職員が橋渡しをし、孤立せず楽しめる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の状況を確認したり、お亡くなりになった時には連絡をいただける関係作りをしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活リズムや希望を把握し、意思表示が出来ない方にはご本人の立場になって検討し、支援をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で生活歴を探り、職員間で情報を共有しサービスに反映させる努力をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活パターンを把握した上で、介護記録、申し送り等でよりよいサービスを提供する為に必要な情報を共有する努力をしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の現状を把握した上で、必要な介護計画を作成し、モニタリングで微調整を行い、現状に合った計画を常に提供している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送り等にて情報を共有し、カンファレンスで問題点の対応等の話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、状況に応じ、できる限り臨機応変に対応する努力をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流、消防訓練への参加、行事時ボランティアに来てもらう等、その時々楽しんでいただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるように、また、主治医との連携を密にし、体調の変化に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、医療連携看護師が訪問し、情報提供しながら健康管理の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書や介護添書により情報提供に努め、相談員等を通じて、ご本人の状況把握ができるように連絡を取り合う努力をしている、		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせて都度、ご家族や主治医との連携をとっている。また、運営推進会議でも今後の経過方針をテーマにし話し合いをしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し備えている。利用者に起こりうる症状を職員間で話し合っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、地域の消防団との連携もできている。災害マニュアル等も備え、月1回防災デーをもうけ、防災管理チェックを行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシー保護に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を話せる環境を作り、話し合う事ができるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムに合わせ、無理なく可能な限り希望に添えるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、声掛けにより興味を失わないように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の残存能力に合わせ、食事の準備、片付け等を、職員が見守り、介助等しながら日々行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に嗜好を考慮しつつ、主治医からの指示、身体状況に合わせ支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の身体状況に合わせケアを行い、昼食後は歯ブラシ、コップの消毒を毎日実施している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄を目標に支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最大3日以上無排便にならないように個々に合わせた調整、予防を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に合わせ、できる限り希望にそえるように調整し、ゆっくり楽しんで頂けるようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切にしながら安眠できる状態にする努力をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個々ファイルにとじ、常に目を通せるようにしており、特に処方に変更があった時には観察を強化している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考にそれぞれの好みを知り、日々の生活に取り入れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一か月に一度はレク行事を入れ、ドライブ等の外出、希望により買物、散歩等、天気、体調に左右されますが楽しんで頂けるように工夫している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで預かっているお金を買物時にはご本人に渡し、使ってもらえる機会を作っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要であれば代筆したり、電話の取次ぎ等をし、忘れてしまうので繰り返しお伝えする。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて室内を飾り、季節感を感じ居心地よい空間作りを工夫して行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに椅子やソファがあり、自由に移動しながら休んで頂けるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より思い出の品や写真、仏壇等を持参して頂き、ご本人にとってくつろげる馴染みの空間を作っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できる為の家具の配置や動線を確保し、自立の妨げにならない工夫をしている。		

## 目標達成計画

作成日: 平成 23年 3月 1日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	行事で外出の機会は設けているが、本人の希望は主に”自宅へ帰りたい”で、現在取り壊されてしまっている方も多いため、希望に添えないケースが多い。	ご自宅は無理でも、昔、通い慣れた商店街や、住んでいた地域へお連れする事で、気分転換を図る。	日常の関わりで生活歴を探り、お一人おひとりにあった外出を行う。	6ヶ月
2	64	七夕や夏祭り、小学校への訪問等、地域との交流の場はあるが、日常的な交流とまで言える頻度ではない。	定期的に通える場を提案し、日常的に地域や外部の方と交流をもてるようにする。	近所の福祉センターで行なわれているサークル等への参加の呼びかけ	1年
3	65	消防団や町内会の方等、理解・応援して下さる方は増えているが、会議の参加メンバーが固定化してきている。	メンバーが固定化しないよう、広く参加の呼びかけをし、サービスの向上へ繋げる。	近隣のグループホームや学童保育の方にも会議への参加を呼びかけ、情報交換したり交流の場を増やす。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。